

(様式1)

平成30年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

(1)学校教育目標	児童生徒一人一人の能力や特性等に応じて、人間として調和のとれた育成をめざすとともに、自立と社会参加の達成を図る。
(2)現状と課題	小学部22名、中学部21名、高等部49名、計92名が在籍し、そのうち19名が隣接するはまゆり学園に在園している。認可学級は22学級であるが、指導学級として編成している19学級のうち12学級が重複学級となっており、障害の重度重複、多様化が進んでいるほか、高等部在籍数も増加傾向にあることから、児童生徒一人一人に応じた指導の更なる充実が求められている。 むつ下北地区唯一の特別支援学校であることから、就学や教育などに関する学校等や保育所、市町村教育委員会への支援のほか、移行支援に関する施設や事業所との連携について、更なる充実が求められている。
(3)重点目標	1 児童生徒一人一人のニーズに応じた指導の展開
	2 キャリア教育の視点を生かした指導の充実
	3 地域との連携による特別支援教育の推進
	4 交流及び共同学習の推進
	5 生涯スポーツの振興
(4)結果の公表	・平成31年2月1日(金)に開催した参観日において、学校評価の結果の説明及び要望事項への回答を行った。 ・平成31年2月7日(木)に開催した学校評議員会において、教職員による自己評価と保護者アンケートの結果を説明するとともに、学校関係者評価を行った。 ・来年度4月に行われるPTA総会において、平成30年度学校評価結果報告書等の説明を行うとともに、同内容を学校ホームページにて公開する。

学校整理番号	特20
学 校 名	青森県立むつ養護学校
対象障害種別	知的・肢体
自己評価実施日	平成31年1月17日(木)
学校関係者評価実施日	平成30年2月7日(木)

(9)-イ 学校関係者評価委員会の構成
・学校評議員6名(施設関係者3名、企業関係者1名、元PTA会長1名、地域住民1名) ・保護者(PTA会長)1名 ・計7名

自 己 評 価					学校関係者評価	(10)次年度への課題と改善策
番号	(5)評価項目	(6)具体的方策	(7)具体的方策による目標の達成状況	(8)目標の達成度	(9)-ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	・児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導の展開	①児童生徒の実態に即した指導内容表の策定 ②複数配置された学校看護師による医療的ケアの実施	おおむね達成 ・全教職員による取組により、成果の共有が授業改善につながっている。 ・校内体制の整備により、学校行事等が保護者の理解のもと円滑に実施された。	B	児童生徒個々の願いを達成するために保護者や関係機関等の連携を図るとともに医療的ケアの適切な運用と充実させるため、取組の継続と専門性の向上に努めてほしい。	平成32年度からの新学習指導要領完全実施に向け、教育課程の整備や指導内容表の活用を適切に行うとともに、校内外の研修をととして教職員の専門性向上に積極的に取り組む。

2	・キャリア教育の視点を生かした指導の充実	①県特別支援学校技能検定発表会への参加 ②近隣施設における体験活動の実施	おおむね達成 ・生徒の意識が高まり、授業への取組意識のみならず将来の自立や社会参加に関する意識が高まった。	B	早期からの児童生徒の進路意識を喚起するとともに、引き続き地域の人材を活用した、丁寧な進路指導に努めてほしい。	10月24日の大会に向け、授業における取り組みを継続する。 学習活動への共通理解と一貫した指導の充実を図る。
3	・地域との連携による特別支援教育の推進	①下北地区こども発達相談連絡協議会の開催 ②教育相談による小中高等学校等への支援	おおむね達成 ・むつ下北地域の特別支援教育の拠点として、関係機関と連携した取組が行われた。 ・高等学校における特別支援教育推進事業への取組により、高等学校との連携が深まった。	B	保護者や小中高等学校における特別支援教育推進を図るため、引き続き連携を深めるとともに、当事者が参加できる内容の検討が必要である。	関係機関や小中高校との連携強化のため、各連絡協議会の内容の充実を図る。
4	・交流及び共同学習の推進	①地域の保育園、小・中・高校及び近隣住民との交流活動の実施 ②居住地校交流の実施	おおむね達成 ・継続して取り組んでいることに加え、障害者スポーツを取り入れることができ、相互理解の深まりが見られた。	B	居住地校交流に引き続き取り組むほか、近隣の保育園や小中学校などにおける交流活動の充実を図ってほしい。	関係校や地教委との連絡調整を適切に行い、内容の充実を図る。
5	・生涯スポーツの振興	①クラブ活動・部活動の実施 ②県障害者スポーツ大会への参加	おおむね達成 ・児童生徒の運動への関心が高まり、大会参加者が昨年度を上回った。 ・全国障害者スポーツ大会フライングディスク(アキュラシー競技)では3位入賞があった。	B	就労に必要な体力作りとしてだけでなく、余暇の過ごし方としてスポーツへの取組を進めてほしい。	授業における取組を継続するとともに、保護者への理解啓発を図る。

(11)総括	教職員の評価点4及び3の項目が約4割であり、全ての項目において昨年度から評価を下げていることから、教育活動の充実に向けての取組をしていく必要がある。 保護者の評価点4及び3の項目が8割以上であるものの、昨年度から評価を下げた項目が10項目であった。併せて、保護者は、「保護者自身」の満足度を低く捉えており、教職員は「子ども本人の満足度」に比べ「保護者の満足度」を低くとらえていることから、保護者の安心感につながるよう活動の充実にも努める必要がある。 学校運営については、緊急事態への対応や教職員の業務について、改善に関する具体的な検討を行い、適切に周知する必要がある。
--------	---